

「世界の温泉首都・日本」温泉ツーリズム推進協議会

第1回 温泉シンポジウム「松山宣言」

2024年7月18日、全国のブロック長が日本最古の湯といわれる道後温泉のある松山市に集い、協議会発足後の最初となるシンポジウムを開催した。

本シンポジウムにより協議会の各ブロック長・スタッフは結束力を強め、高い志を持って活動をさらに進化させることに合意。

本協議会が誕生した意義に鑑み、具体的に以下の事項に取り組むことをとりまとめ、松山市でのシンポジウムの成果を「松山宣言」として、ここに発表するものである。

1. 日本の温泉の特徴を明確にブランド化し、オールジャパンで発信する

個々の温泉地のPRだけではその魅力が世界に十分に伝わらない。世界的視点を持ち、共同で「日本温泉ブランド」を構築し発信する。

2. 日本の温泉にまつわる歴史と文化を世界に発信する

温泉誕生の由来、活用の歴史や付随した伝統文化(祭りなど)は、世界との最大の差別化であり、世界からの憧れやリスペクトを集め得る財産である。

3. 日本の温泉のSDGs的要素を発信する

日本の温泉は誰をも受け入れ、地域コミュニティの役割を果たしてきたが、バリアフリー、タトゥー受入れの情報発信の他、温泉体験の入口として、銭湯など大衆浴場の発信などを進め、より多くの人々が温泉を楽しめる環境づくりに努める。

4. 日本の温泉の高付加価値化を推進する

健康や美肌への効果など、泉質の科学的証拠を示すことなど、日本の高品質な温泉を説得力を持って発信し、世界市場の中で適正な価格が得られ、日本の温泉の競争力向上と市場の拡大に貢献する。

5. 海外の温泉地との交流を推進する

違いを知ることで、日本の温泉の強みや課題が明確になり、発展の糧が得られる。また、温泉好きな海外の潜在客に直接アプローチできるため、効率的に日本の温泉利用者を増やすことにつながる。

6. 協議会としての活動の KPI を定める

協議会の活動の成果を年々充実させるために、第 2 回温泉シンポジウム 加賀大会までに、適切な成果指標を皆で定め、一年に一回のレビューを行う。

以上を、協議会の全ブロック長合意の元、ここに宣言する。

令和 6 年 7 月 18 日

「世界の温泉首都・日本」温泉ツーリズム推進協議会

北海道ブロック長 登別市長 小笠原 春一

東北ブロック長 仙北市長 田口 知明

北信越ブロック長 加賀市長 宮 元 陸

関東ブロック長 日光市長 粉川 昭一

東海ブロック長 熱海市長 齊 藤 栄

中国ブロック長 松江市長 上定 昭仁

四国ブロック長 松山市長 野志 克仁

九州ブロック長 別府市長 長野 恭紘

事務総長 溝 畑 宏